

從三宅清子、梅心怡(Lynn Myles)、小林隆二郎、矢谷等等我所知道關心台灣的朋友，串聯起日本和台灣的友誼。2017 年上半年，因為小林、矢谷，馬場櫻導演(以下稱櫻導演)首次來到鄭南榕紀念館，由前政治犯蔡焜霖前輩為她日語導覽，櫻導演被感動了，因此誕生了紀念鄭南榕的日語音樂劇。

三宅清子さんから、Lynn Myless さん（梅心怡）、小林隆二郎さん、矢谷さん、私がよく知っている、台湾に関心を持つこちらのみなさんに通じて、台湾と日本の絆ができるようになりました。2017 年前半、小林さん、矢谷さんと馬場さくら監督が初めて鄭南榕紀念館に訪れました。元政治犯の蔡焜霖さんの案内により、さくら監督は凄く感心になって、これは鄭南榕をテーマにしたミュージカルが誕生のきっかけです。

在櫻導演和櫻劇團的努力下，《71 日的台灣白百合》於日本大阪首度演出，蔡前輩前往大阪出席座談，以當事人身分現身說法，分享台灣戰後的歷史。那時候，很多朋友好奇又期待舞台劇，如何以鄭南榕串聯台灣 228、白色恐怖的故事呢？到底是什麼樣的表演形式？什麼時候能夠在台灣演出呢？

さくら監督と桜人企画の努力のお蔭で、《七十一日的台湾白百合》は大阪で初公演ができました。その時、蔡焜霖先輩は講演後の座談会に出席して、当事者として、台湾戦後の歴史を語った。(台湾では元政治犯だった方に、先輩と呼んでいます。) よく聞かれるのは、どうやって鄭南榕さんの生い立ちから 228 事件と白色テロが繋がれるか、ミュージカルではどんな表現を使うか、それともいつ台湾で公演ができるか。ご来場の方から様々な関心を頂きました。

台灣大學研究生協會和日本民間交流已久，沒想到由他們促成了學生團體和鄭南榕紀念館合作，於 2018 年 4 月 7 日鄭南榕的紀念日，在鄭南榕曾經就讀的台灣大學演出《71 日的台灣白百合》。台日友誼的奇妙力量，更進一步推進 2018 年下半年，舞台劇到東京八王子市演出。櫻導演帶領日本專業和業餘演出者的持續熱情，在 2019 年鄭南榕過世 30 周年，再度來到台灣各地演出，包括鄭南榕就讀過的台南成功大學，意義深遠。

台湾大学院生協会は日本の民間組織との繋がりはすでに十分長いですが、まさか今回は鄭南榕記念館との連携が実現になり、2018 年 4 月 7 日、鄭南榕の命日で、《七十一日的台湾白百合》は台湾大学で公演ができました。台湾と日本の友情から導かれた奇妙な力で、この劇目はさらに世に知られました。2018 年後半、東京八王子市もこの劇が上演しました。さらに、さくら監督と役者たちの情熱をよって、鄭南榕さん没後 30 周年の 2019 年で台湾巡演が実現され、鄭南榕さんが在学だった台南成功大学も回れて、実に有意義なツアーで

した。

《71 日的台灣白百合》幾次演出的始末，不只綻放藝術能量，總是有很多台前、台後的故事，不同演員演出相同角色，發生動人的故事。記得 2018 年第一次櫻劇團來台演出時，團員神戶大學女學生為了向鄭南榕致敬，送給紀念館《哆啦 A 夢》圖樣的餅乾。女學生並不知道鄭南榕女兒竹梅小時候聽爸爸講每一期《哆啦 A 夢》漫畫，竹梅記得漫畫裡的每位人物。

《七十一日的台湾白百合》は既に数回公演されました。舞台だけではなく、裏にも物語があります、同じ役を演じる役者たちの間にも、いろんな思いが重なっています。そこに一つ、私が感動になった話がある。2018 年、桜人企画が初めて台湾公演を行った時、神戸大学の女学生であり、団員の一人がお供え物として、「ドラえもん」のキャラクッキーを記念館に差し上げました。その女学生が知らなかったのは、鄭南榕さんは昔、いつも娘の竹梅に読み上げた漫画も、偶然「ドラえもん」でした。竹梅は「ドラえもん」が大好きです。

這是意外也是心靈契合嗎？餅乾藏著故事秘密，真是令人驚奇，竹梅對爸爸的記憶故事，感染了不知情的神戶大學女學生，她們聊起《哆啦 A 夢》，流著高興又感傷的眼淚。年輕的日本演員和竹梅都很好奇：櫻劇團和大家碰在一起，不禁讓人想問：為什麼這個時候鄭南榕的舞台劇動人地出現呢？

これはただの偶然なのか、心が通じ合ったなのか。一枚のクッキーの裏にも物語がある、この話を知った女学生はすぐ竹梅と親しくなった、嬉しくて悲しい涙が飛び交っています。この二人が知りたいのはただ、この時間で、この場所で、みんなが集まれて、この舞台が作れるのは、これらの偶然は一体何者なのでしょうか。

串起這條長線，大概只能從民間紀念館交流的熱情能量來解釋，彼此實實在在關懷的同理心，讓台灣朋友感受到日本朋友的主動熱情。例如，櫻導演為整齣舞台劇所寫的主題曲，搭配櫻劇團製作的演出劇照剪影，歌曲悅耳又動人。舞台劇新增〈八色鳥〉的詞曲，隱喻著各種深刻意涵，好聽又激勵人心。

この繋がりができる理由は多分、民間の交流が盛んでいるからです。お互い偽りのない関心を以って、台湾は日本の熱意を感じ取りました。私は舞台の写真を見ながら、ミュージカルの曲に合わせて、その時が一番感動になります。特に「八色鳥」という曲がいろんなメタファーが隠されて、いい曲だけではなく、人の心も励ます。

回顧《71 日的台灣白百合》演出背後故事，延續著台日民間交流的情感，鄭南榕基金會協同許多熱心人士的支持，讓音樂劇連續演出三年。小林生前真誠交往台灣各地朋友，播下了友誼的種子，今年(2020)台東的原住民朋友達卡鬧創作懷念小林的歌曲，激勵了台日的朋友。今年 90 歲的蔡焜霖前輩常常去綠島、鄭南榕紀念館、台灣各地導覽分享，他的行動說明了一切，真誠情感串起了長久的日台友誼。

《七十一日的台灣白百合》から生まれた様々な話を見返ると、それらは全部、日台関係の紐になっています。この過程はいろんなの協力を頂きました、鄭南榕基金會も、他の人からでも、たくさんの支援のお蔭で、このミュージカルが三年連続、公演ができました。小林さんは生前、台湾各地で繋がりを築あげました、それは種になり、今の強い絆になりました。2020 年、台湾台東の先住民の達卡鬧さん(ダカナウ)が小林さんのために曲を作りました、その曲もさらに日台のかけ橋になりました。今年 90 歳になった蔡先輩もよく緑島、鄭南榕記念館などの場所で自分の経験を若者たちに話します。彼らの行動により、日台の絆はきっと長くて強いものになるでしょう。